

活生海日



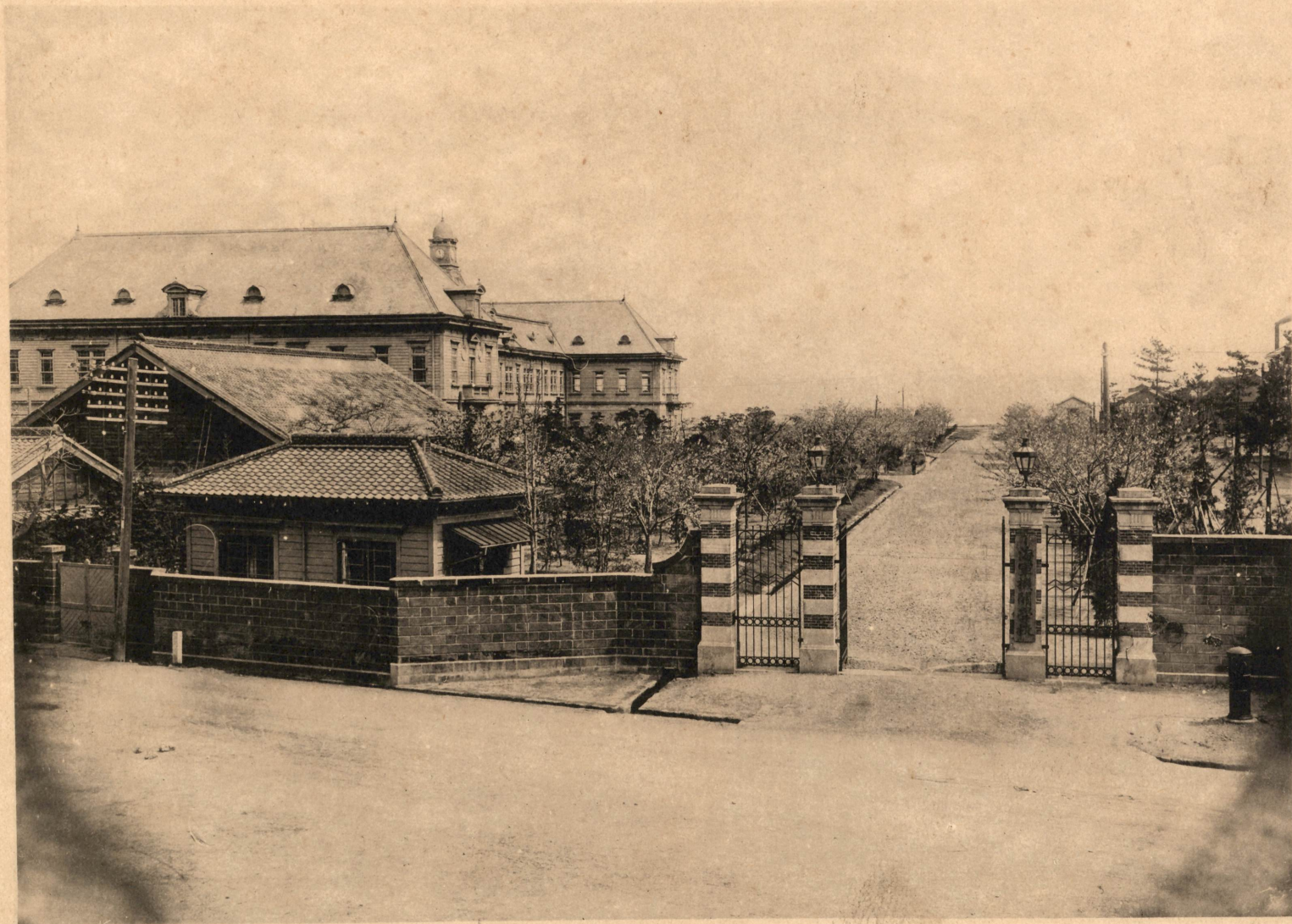
F. Akaba

同心
協力

大正丁巳夏

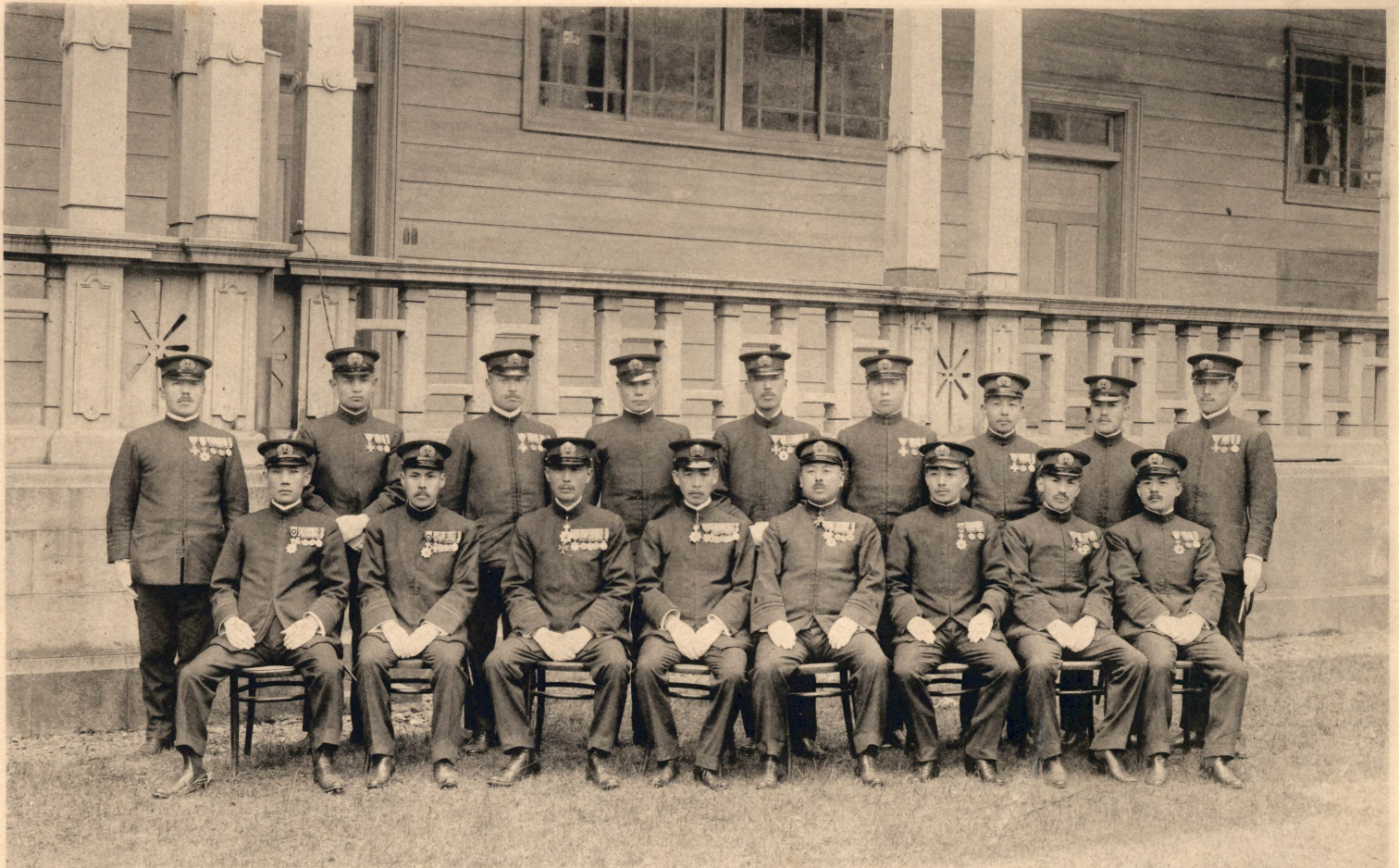
幸輔題

資料登錄
号
57.8.3
2 術 校
研究部資料課



門 校

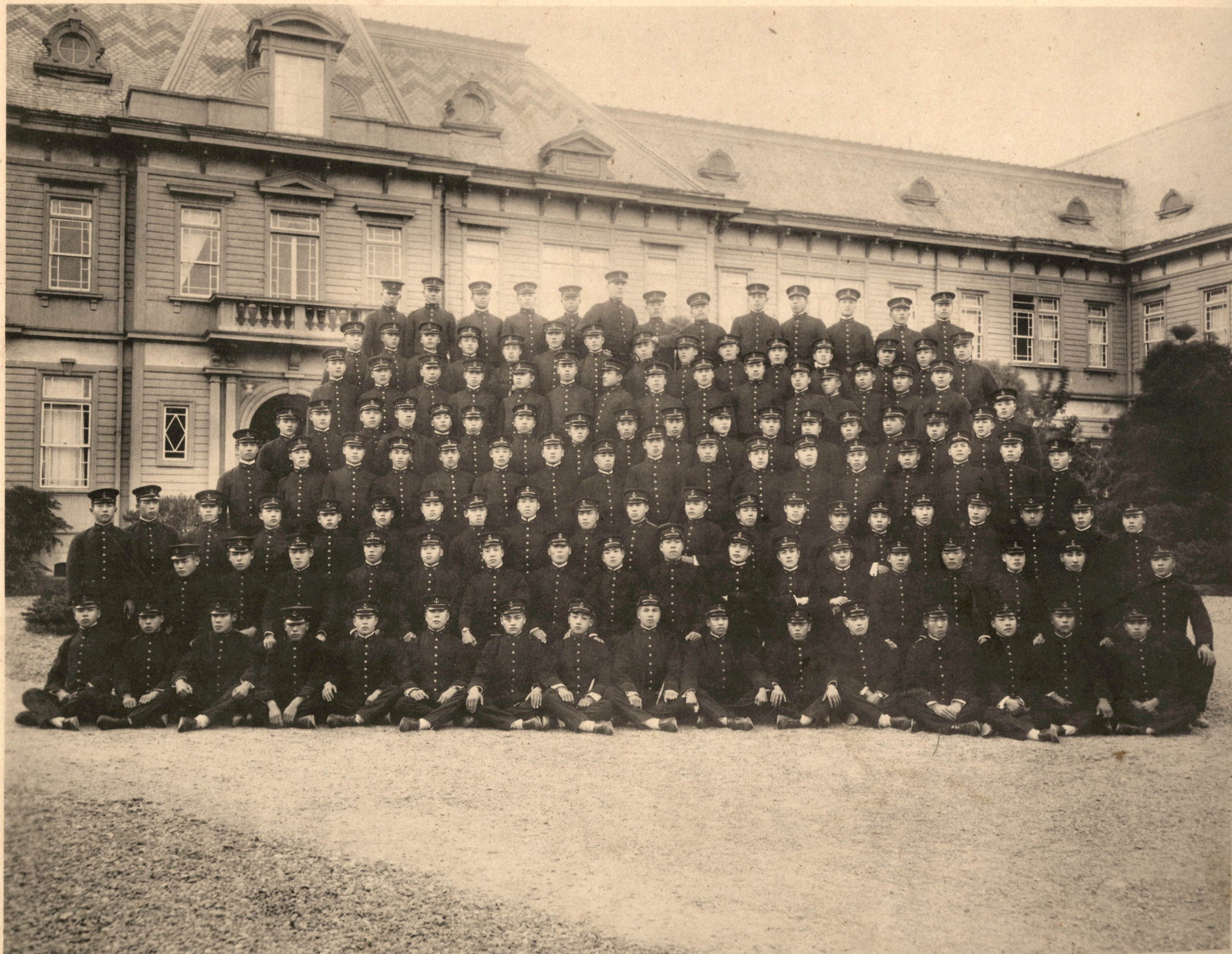
。るあが活生ぬら知の人の世浮 。るあが地天別の等我てしと境を門の此



武 官 教 官



文 官 教 官



員 總 徒 生



本館背面

建物の懷ろに思切つて砲彈を蒙つてゐる戦利艦の艦載水雷艇が閉塞隊の端艇と並置されて居る、我等が朝夕無言の勇者として尊敬して居るものである。



本館正面

白濱の偉觀たる本館の前には我等の誇りとする櫻花木がある。春風一路梢頭に花雲をつけるととき、我等は樹下を逍遙して古武士の面影を忍ぶのである。



大講堂及生徒館

大きな建物は我等の大講堂である、精神上の糧の多くは此所より出る、我等にとつては神聖なる意味深いものである。他日報國の大義に芳名を千載の后ちに殘す人、必ず堂内より跳出するを疑はないのである。

大禮記念碑

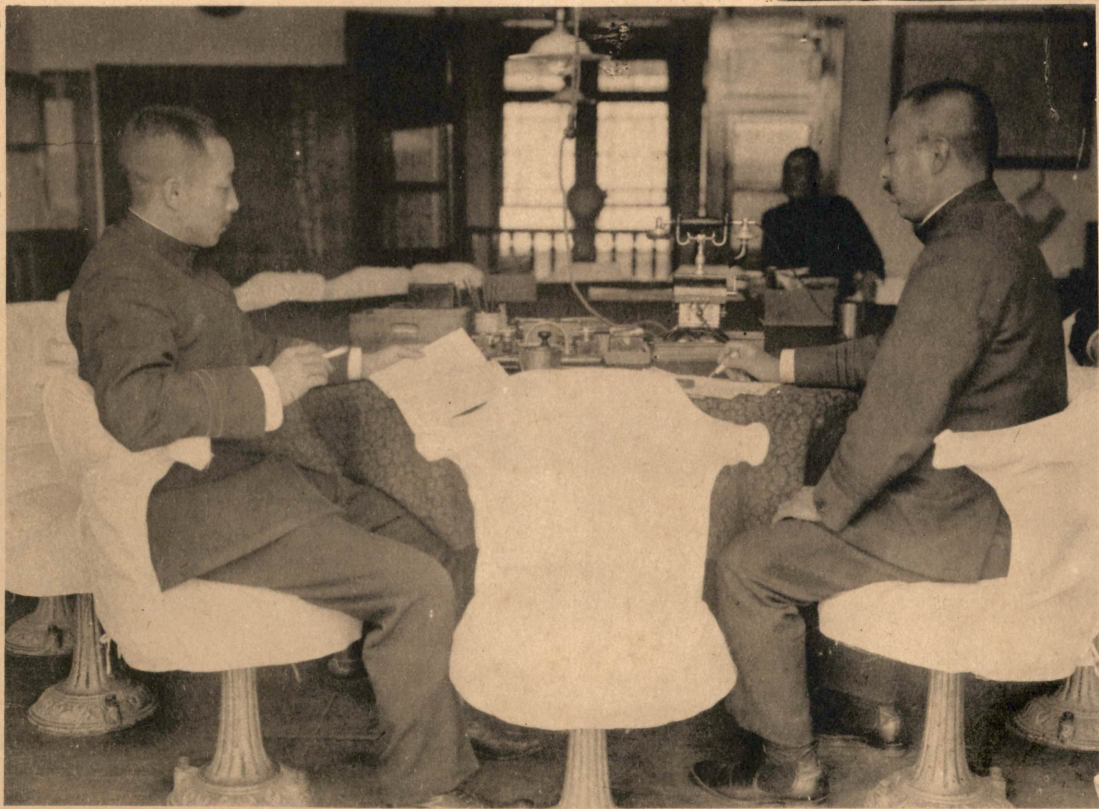
今上陛下御即位式大禮を記念するために作られたものなり。

圖案全校より募集、第廿六期の岡部生徒當選、而も製作は全部本校の工場にて。



監事部である。監事部と云ふ名が如何なる
感想を我等に與へるかは一度生徒に成てみ
ねば到底理解する事のできぬものである。

監事部

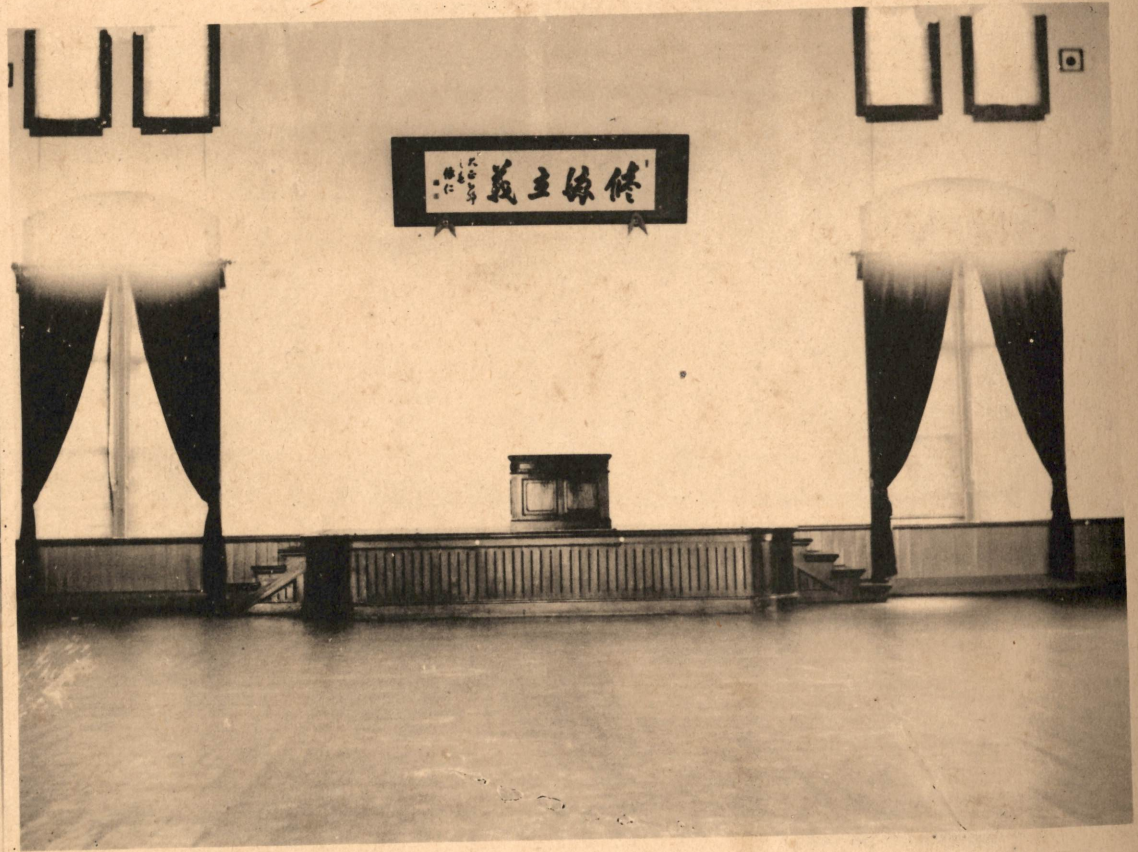


校長室

生徒館階下



大講堂



毎朝起床生徒一同一講堂に集る、遙か九重の宮居を拜伏する皇運の彌榮に榮え
 さまこんをと祈念する
 清しい朝の空気を四邊に込め、生徒の胸中には燃ゆる如き尊王の心が振起る

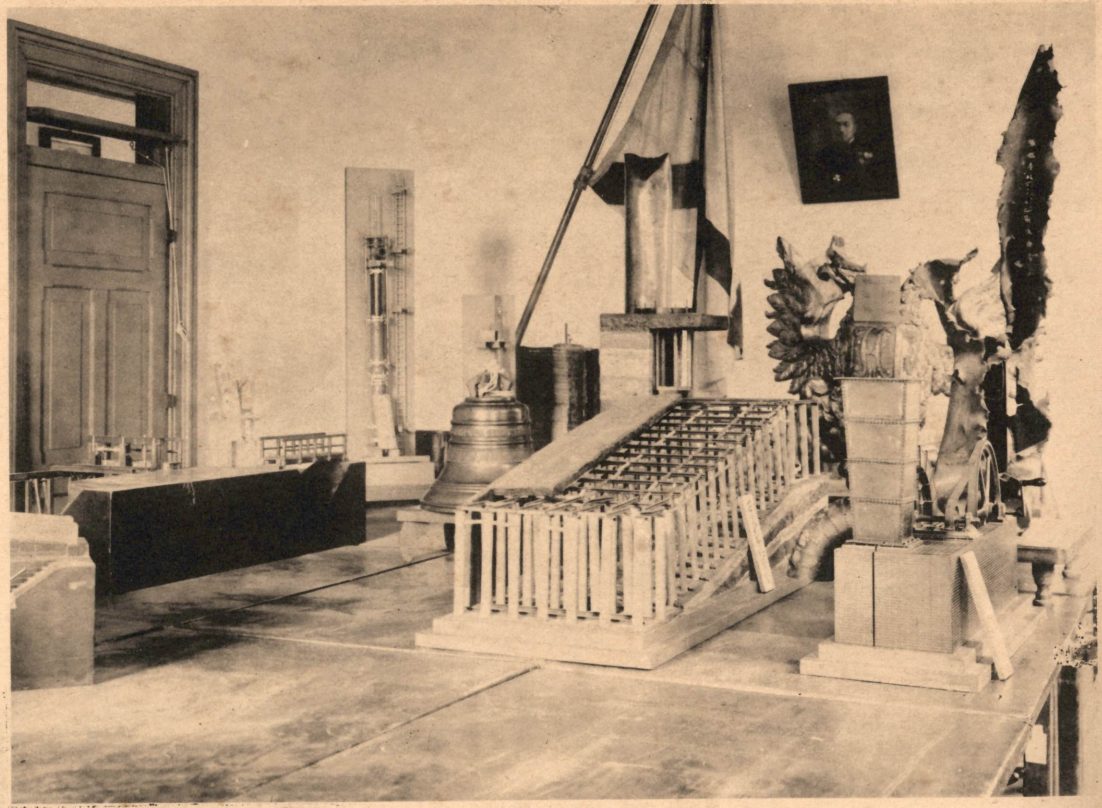
海軍銃が式三八の小銃、温習室の入口なり、左は銃架、右は温習室の入口なり、功名手柄に弾丸中雨、陸上勤務の中年もつあは前名と
 名無。道義の忠實なるに務職の己自君八三なふ給き
 清しい朝の空気を四邊に込め、生徒の胸中には燃ゆる如き尊王の心が振起る

百四十餘頭の夜毎の夢は果して何だろう。
勇しき功名手柄乎。懐しき古郷の夢乎。寢
臺密に曰く非ず。休日飽食腹割るが如く。

寢 室



生徒館階上監事部前より
奇數分隊寢室廊下を望む
左方掲ぐる額は歴代校長の油繪肖像畫なり



軍醫部全景

白濱名物の病氣に月曜カタルと云ふのがあ
る。又の名を日曜加答兒と云つて天高く腹
空く九月十月の頃最も猖獗を極める。詳細
は部外秘なれば録せずと云爾。



参考品室

戦利品、及直接座學に必要なき雜型類を一
室に集めて参考室と云ふ。

カ)



庭園を距て、魚雷教場と
文庫を望む

花圃に藤あり薔薇あり躑躅あり菊あり殆ど
年中花の絶間なしカデットの生活にも斯く
て優しき情操は養はれつゝあり

ハ

起 床

鷄鳴殘月遠
霹靂無須覺
曉夢繞中州
驚人不可求





呼吸運動

朝各分隊員は一號生指揮の下に十五分間呼吸運動を行ふ。世の塵に染まぬ曉の風鼻孔より腹底に徹し、清新の氣五体に漲る



洗面所

ピカ／＼光る 金 盥、
 ザツと飛び出す 水の音、
 クル／＼渦を 巻きながら、
 ブク／＼泡を 立てながら。

木



整列點檢

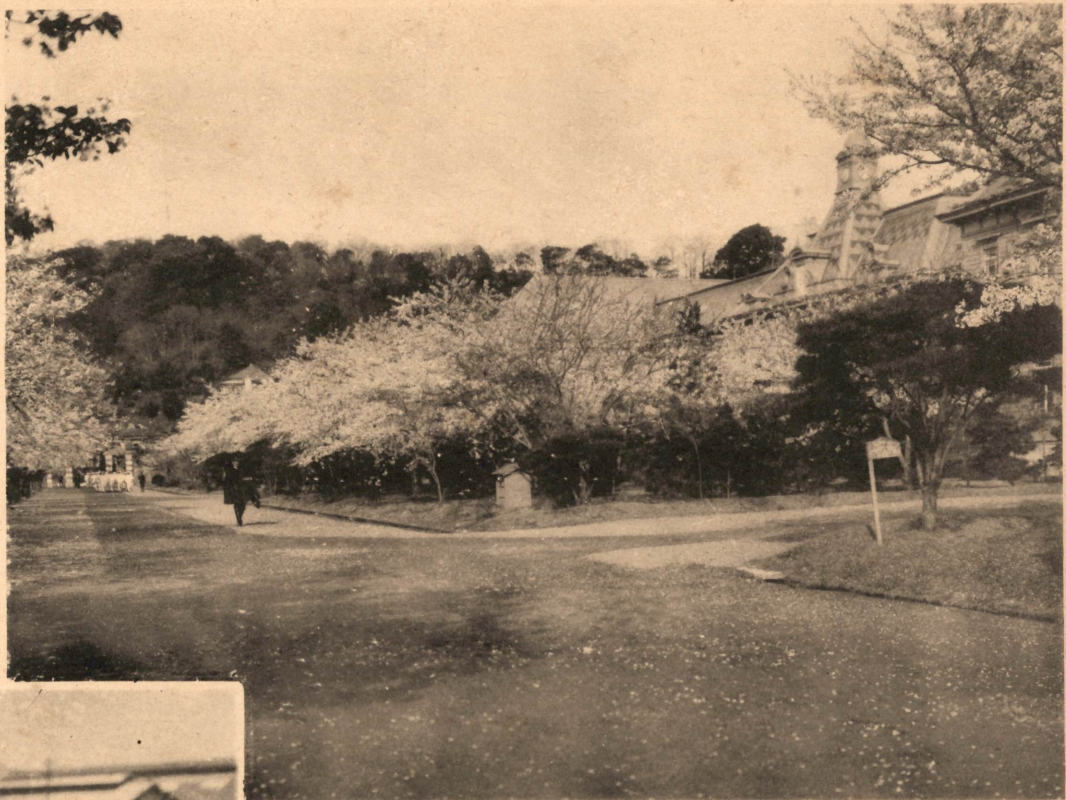
雨が降ろうが槍が降ろうが點檢は必ず行はれる、若し少しでも服装容儀に手落があると雷がなる。

よ
よ

食 堂

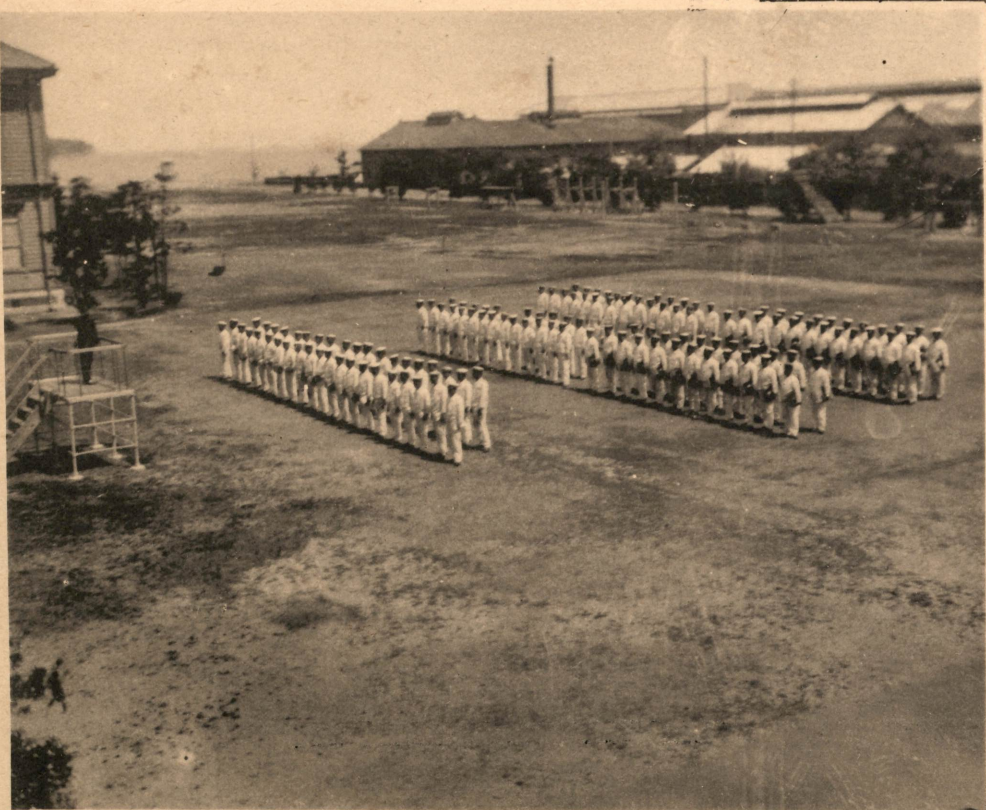
我等に三樂あり、食事、入浴及び外出とす、活動を生命とする我等にとりては井の輕重は重大なる問題である。





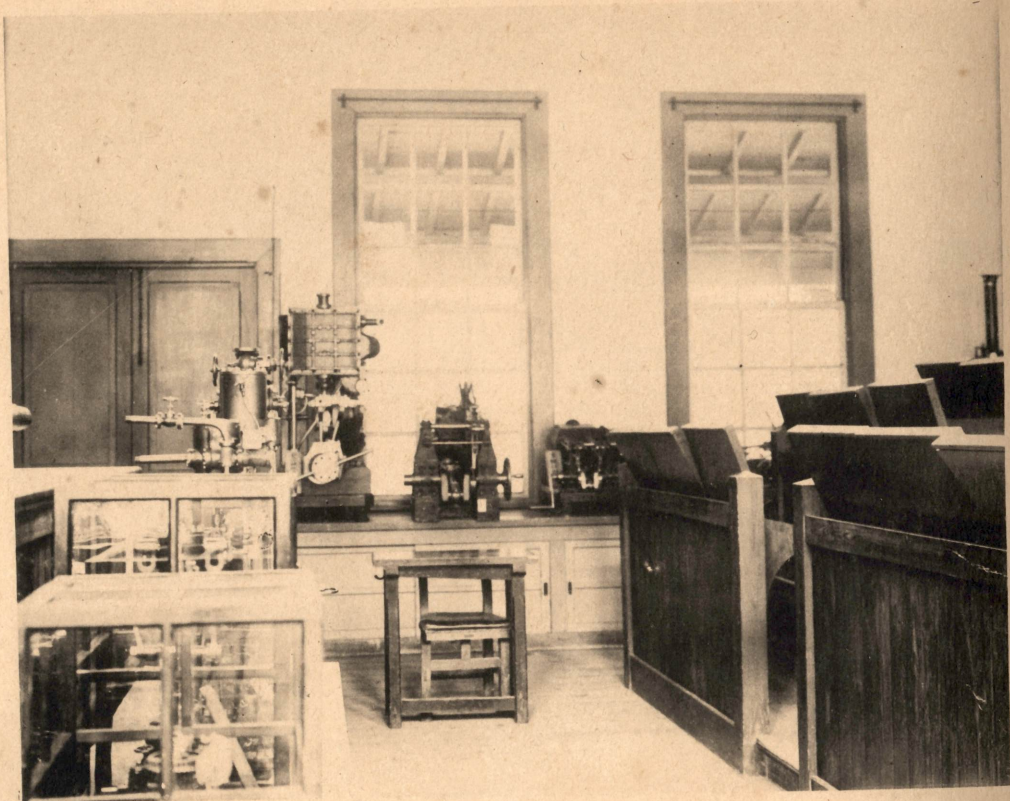
授業整列

教場に向ふ武裝は宜ろしいといふ型ちである、若し茫乎として武器たるべき教科書其他の携帶品に取落しがあらば一期の不覺なり。



駢足

入校したては、直ぐと呼吸が切れる、足が一噸位に感じられる。何に糞で押し通した曉は。オリンピックの先生達に呈する敬意の量の少なきを啣つ。



教 場

(其一) 主機械教場

三年四ヶ月の教程を略述すれば次の通り

軍 事 學
 機關學 (機械、罐、熱力、補機、水壓、實地機關、
 電氣機械)
 圖 學 (見取圖、製圖、計畫)
 應用化學 (構造強弱、機械運動學、機械化學、材
 料強弱)
 兵器學 (魚雷、砲熗)
 造船學
 工業
 銃体教練

普 通 學
 數 學 (代數、三角、解析幾何、微積分)
 力 學 (初等力學)
 理 化 學 (工用化學、物理)
 外國語學 (英文、會話)

此外別科として法律、航海術、運用術及柔
 劍道、体操等がある。始めは化け物に見え
 た模型などが今ぢや之は舊式に屬するなど
 と云ひ度くなる、努力の前に化け物なしと
 てもいひたくなる。か

教 室

(其の二) 罐

宮原艦本「ベルビル」、「ノルマン」、「ニコロ
 ース」、「ヤロー」の水管式も「タンク」罐
 などの雛形が澤山ある。





教 場

(其四) 製圖

計畫して製圖して、工場に送れば直様職工の手に掛けられる様に仕上げるのが製圖の授業である、先づ最初スライドルールでコッ／＼計算する、やつと寸法が定まると又コッ／＼之を製圖する、微は細微に入り大は方所を絶すといふ文句がある計畫、製圖は千分の一時迄も尊重科目である。此細微な仕事から三万噸が舷頭に風を切る大活躍が出現する。微々たる事と侮る勿れ。微なければ大なし。



教 場

(其三) 應力

Warren Girden の講義。

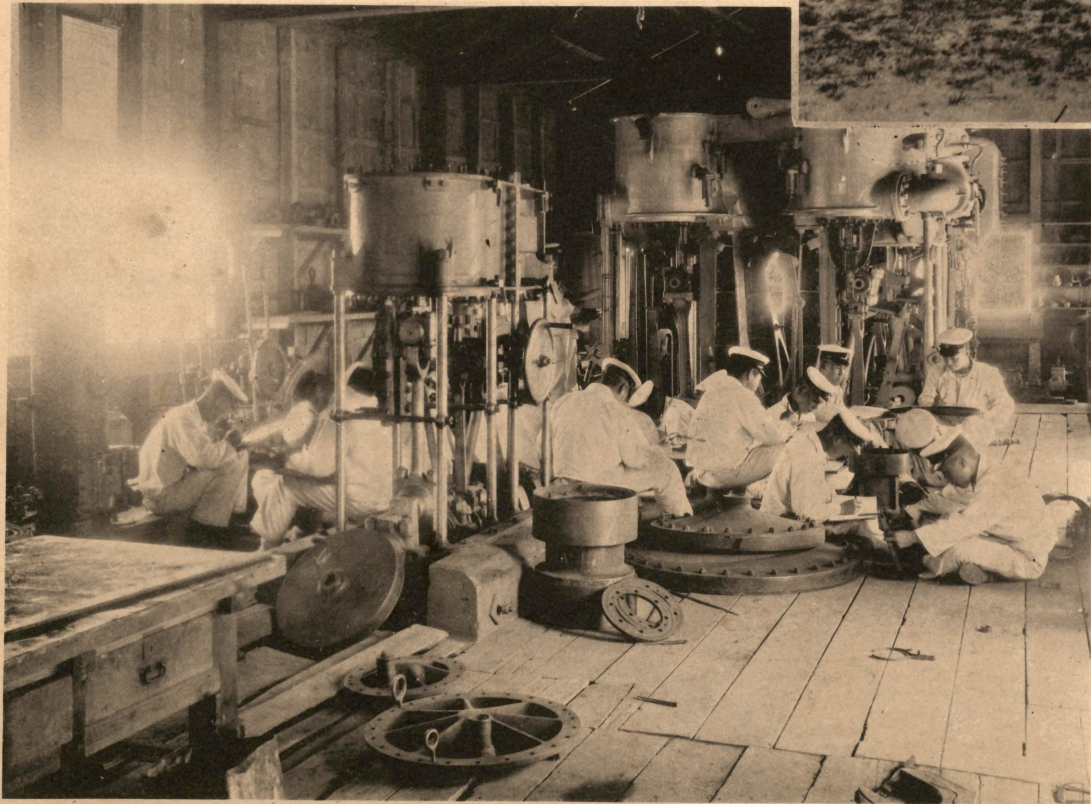
應力は極めて重要な學科である。趣味のある學科であるといふのは眞實であると共に恐ろしく六ヶ敷しいと思ふのも眞實です。

ナ



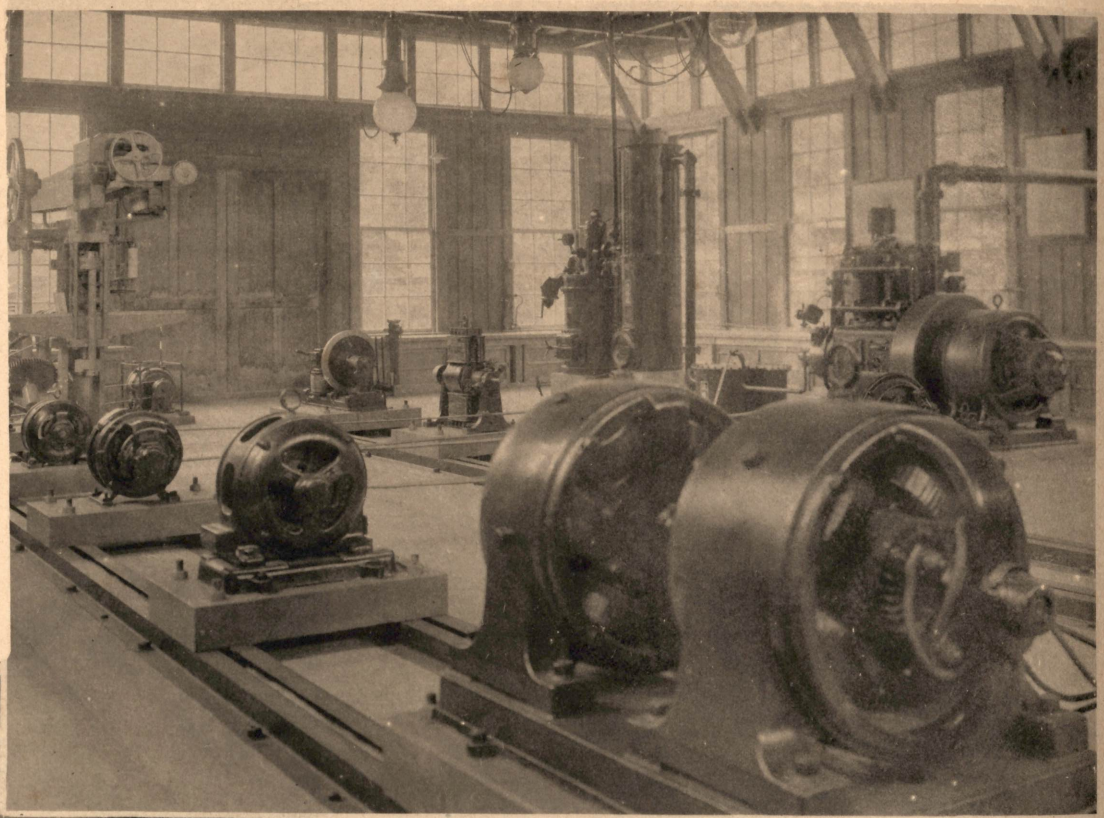
見 取

「セクション、ライン」が柳に雨の如く、書きし螺釘。不出來の石塔の躍るが如き日も何時か去りて今じやドゥヤラ見られる様になつた。今更ながら時の力に驚嘆する

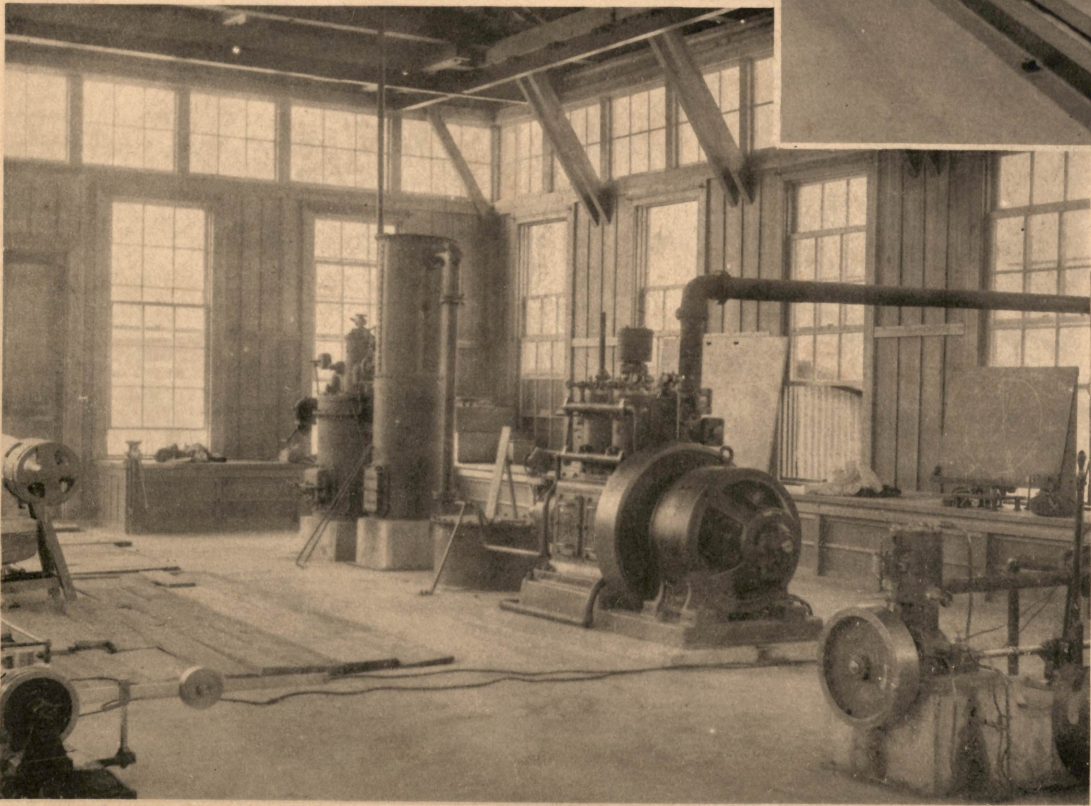


午食後ノ休憩

「ラケット」を持つ者、「グローブ」を持つもの、鐵棒にぶら下るもの、種々様々、運動場は楽しく戯る白鷗の群の如し。



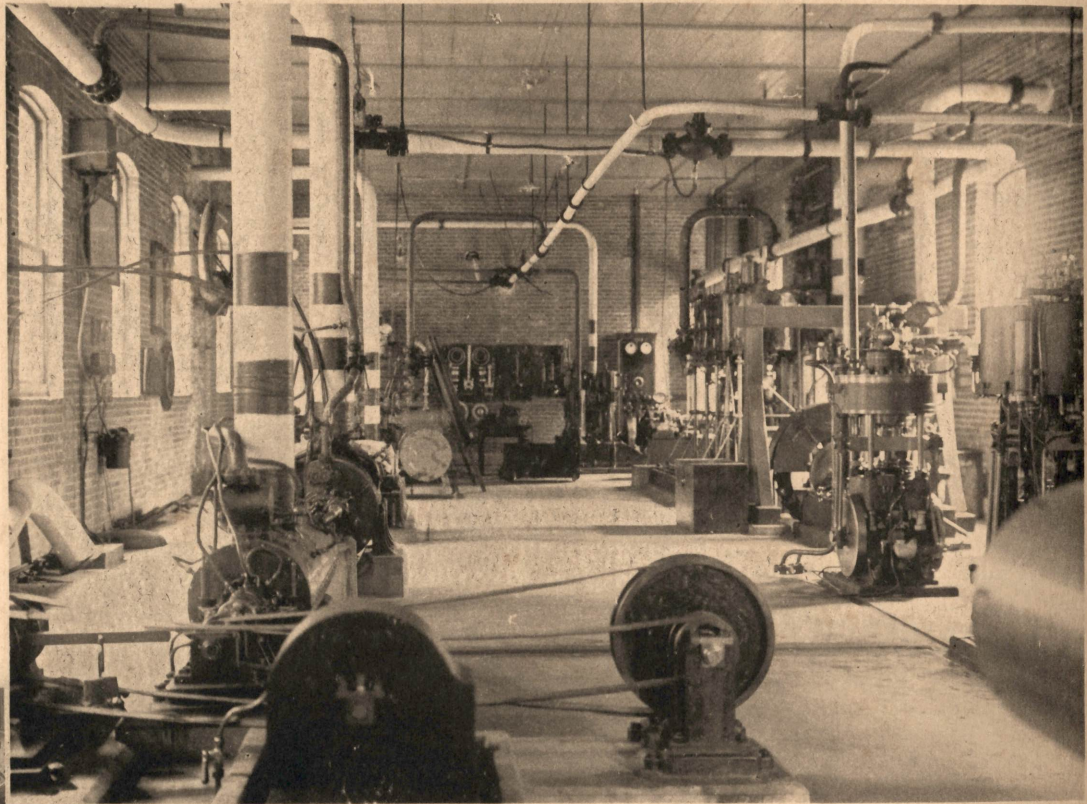
第一實驗室
(其二)



第一實驗室

(其二)

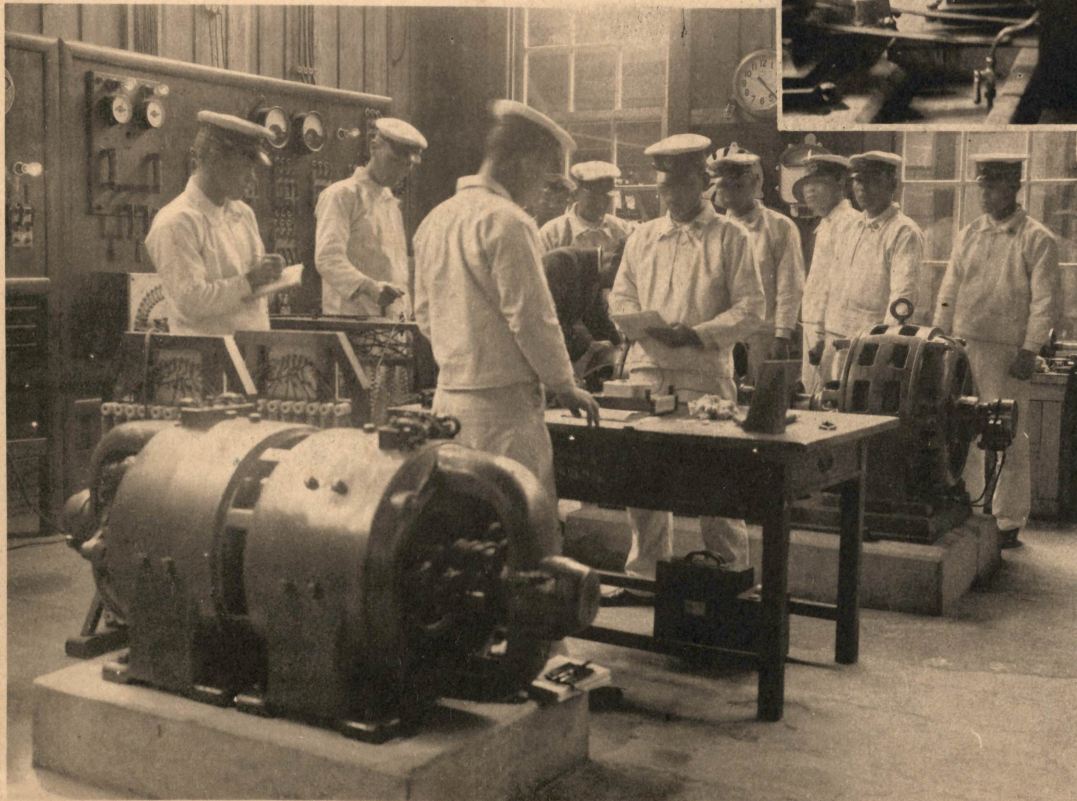
第三學年になると電気機械、内火式機械、材料強弱などの實驗は主としてこゝで行はれる。
廻はる機械が不思議であつたのが、廻はらないと不思議になり。よく調べると不思議でなく。世の中に不思議なし。



實 驗

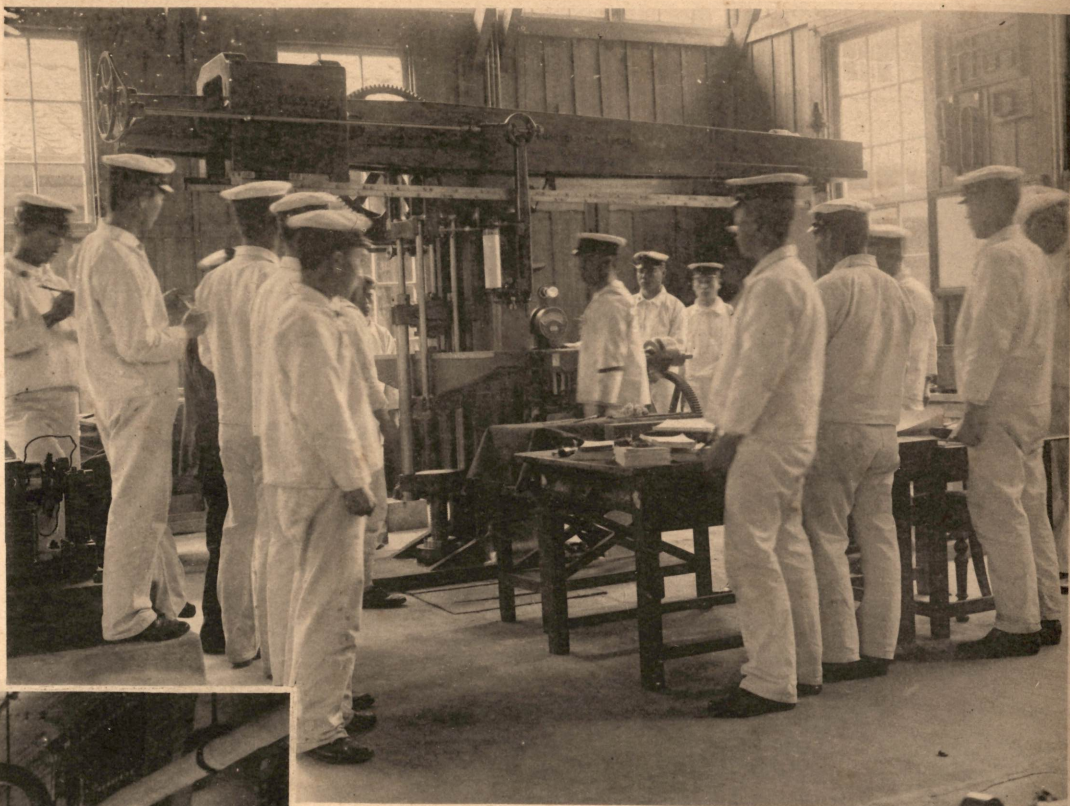
(其の一) 電氣

習ふよりは慣れよとか、リアクタンスのインピーダンスのと教場の講義に小さい頭脳を搾る暇に、スキッチ一寸着ければモーターが勢こんで廻り出す。廠の行列許り研究したとてモーターの使ひ方も知らぬ様では機關將校の價値は有るまい、一週四時間の電氣の實驗は生徒に取つて最も貴重な経験である。



第二實驗室

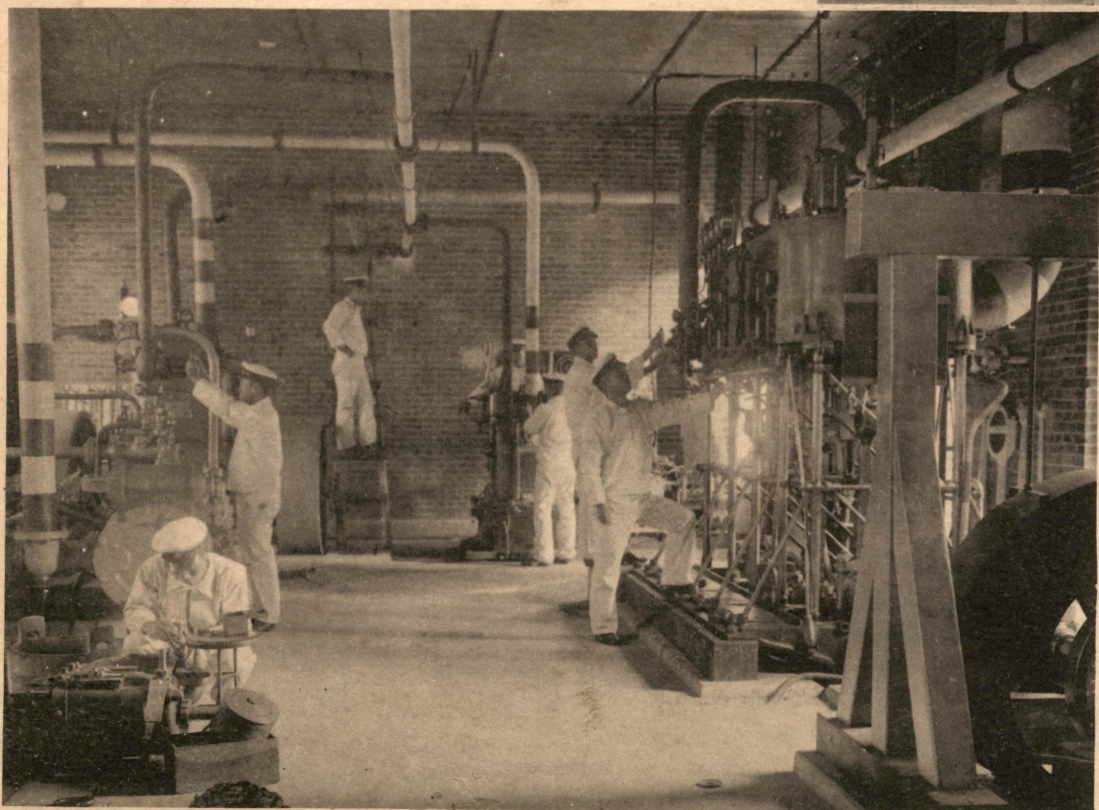
こゝでは主として吸鋸式「タルビン」の實地運轉などをする。



第二實驗室

蒸氣機械運轉

主機械、發電機「チルビン」前進半速
ストップ!



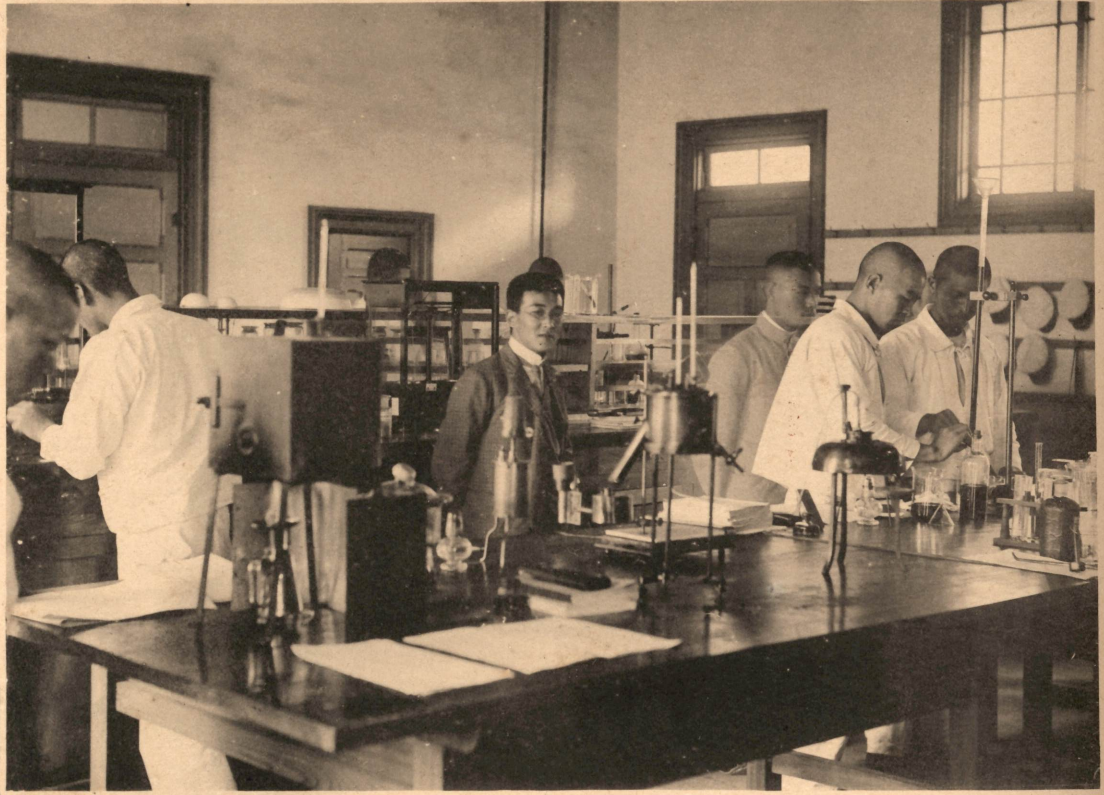
實驗

(其の二) 材料試驗

學校備附のバクトン機械にて材料試驗の實況。モーターが勢よく廻る。ウエートが段々右に寄つて行く。カーブは今イールディングポイントを示してゐる。途端にドタンと音がしてテストピースは二つに割れた。

ア

物理實驗



實 驗

(化學)

瓦斯分析發熱量の測定など
ENGINEER に必要なる試験方法斯くして
學ばれる。

々



工業

(其二) 旋盤

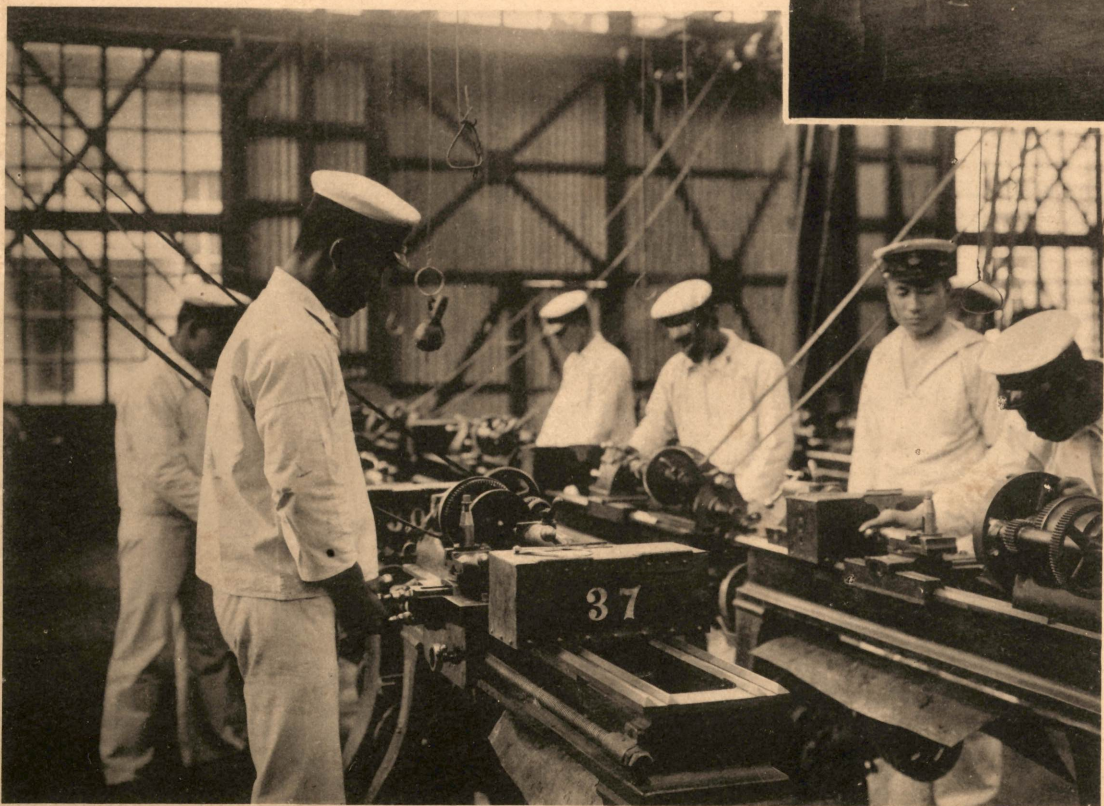
一人前仕上職?

工業

(其一) 仕上

諺に「使ふ者は使はれる」と云ふ語がある。
部下を統率する者は常に部下の勞力を察し
て能くその負擔の輕重を知らねばならぬ。
之生徒に工業の科せらるゝ所以、

曰く鍊鐵、銅鉛、鑄造、製罐、木工、旋盤、
仕上と三年四ヶ月の白濱生活に於て一通り
の細工、工業を學び盡す、寫眞鑑使用法實
習模様

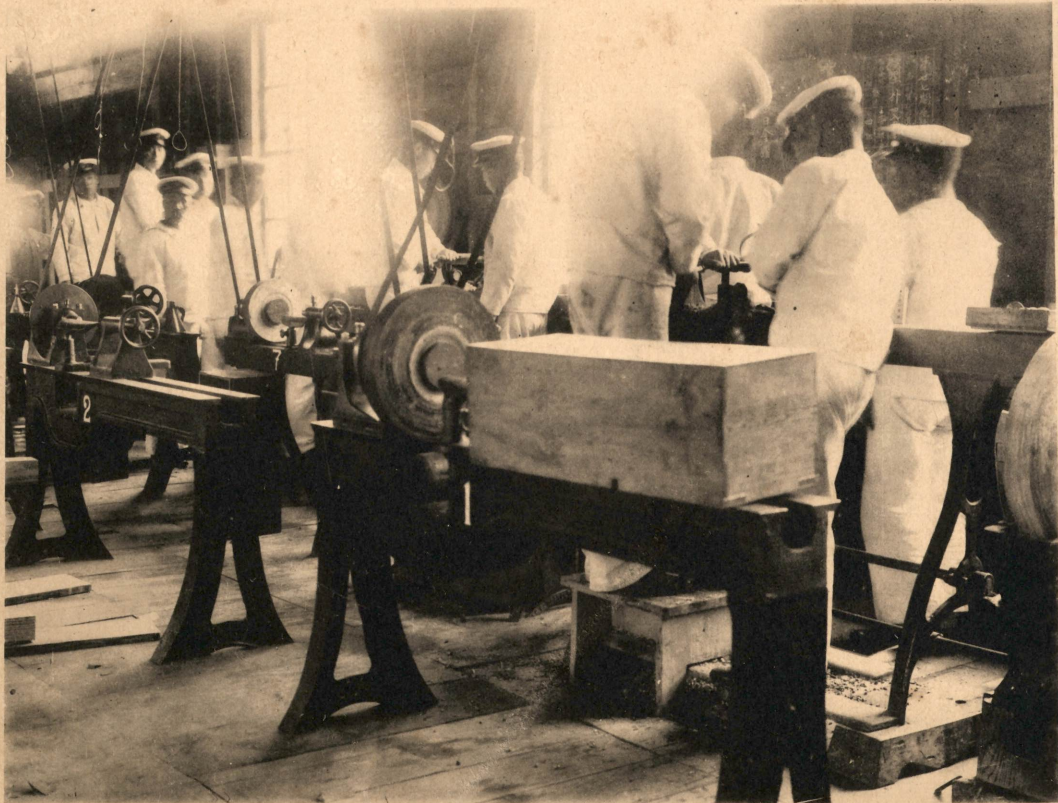




木工旋盤使用中の生徒

(其の四)

木工は工業の一部にして二學年の半年を以て修業期となす旋盤を使用して各種鑄造雛形の製作に従事す。



工業

(其の三) 鑄造

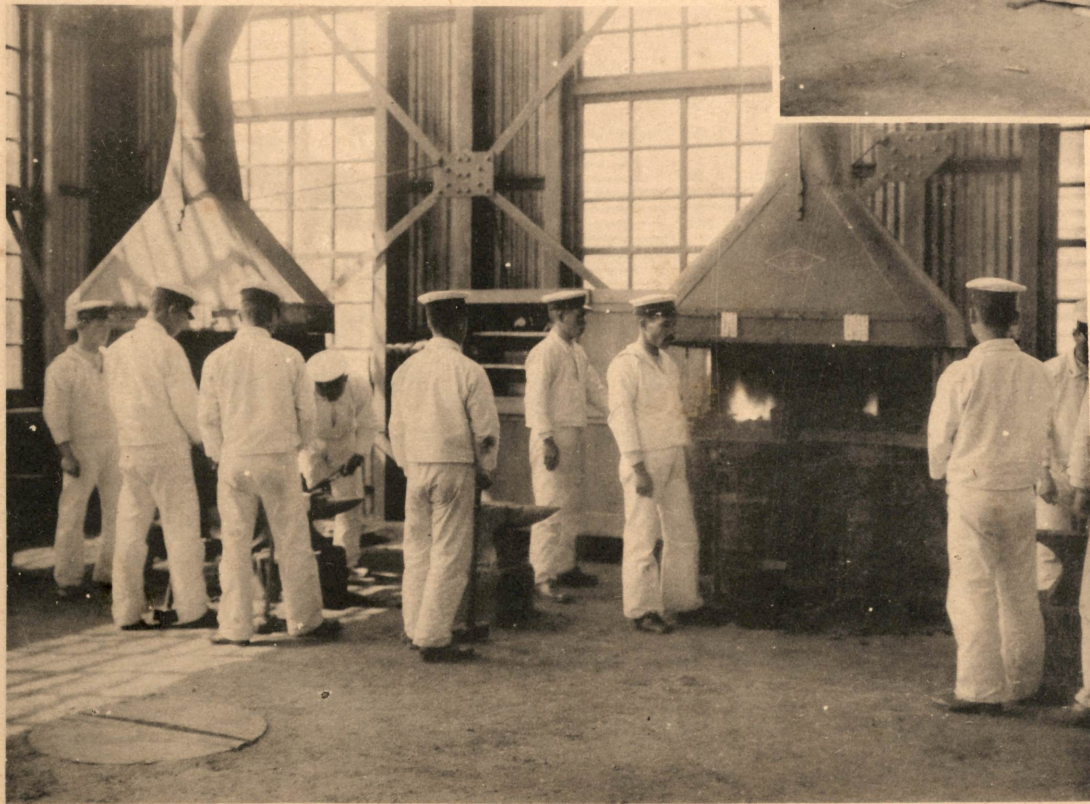
鑄物屋なり。
土を捏ねて鑄型を造り、鬼の息かと滾れる湯を注ぎ込む。
どうやらこうやら、コックも出来ればブレーも出来るから妙なり。



工業

(其六) 鍊鐵

汗の滲む眞夏の日に、蒸す様な爐の側で、
重いハンマー振上げてトンビン〜、眞赤
になつた黒金を鍛鍊するのも痛快な事の一
つである。



工業

(其五) 製罐

Canlining やら紙締などと、大低鑿とハンマ
ーの仕事。勢込んで振り上げたハンマーは
狙ひ外れて容捨なく手の上に落ちて行く。
三所四所繙帯に結ばれる頃どうやら腕の狙
ひが定つて来る。



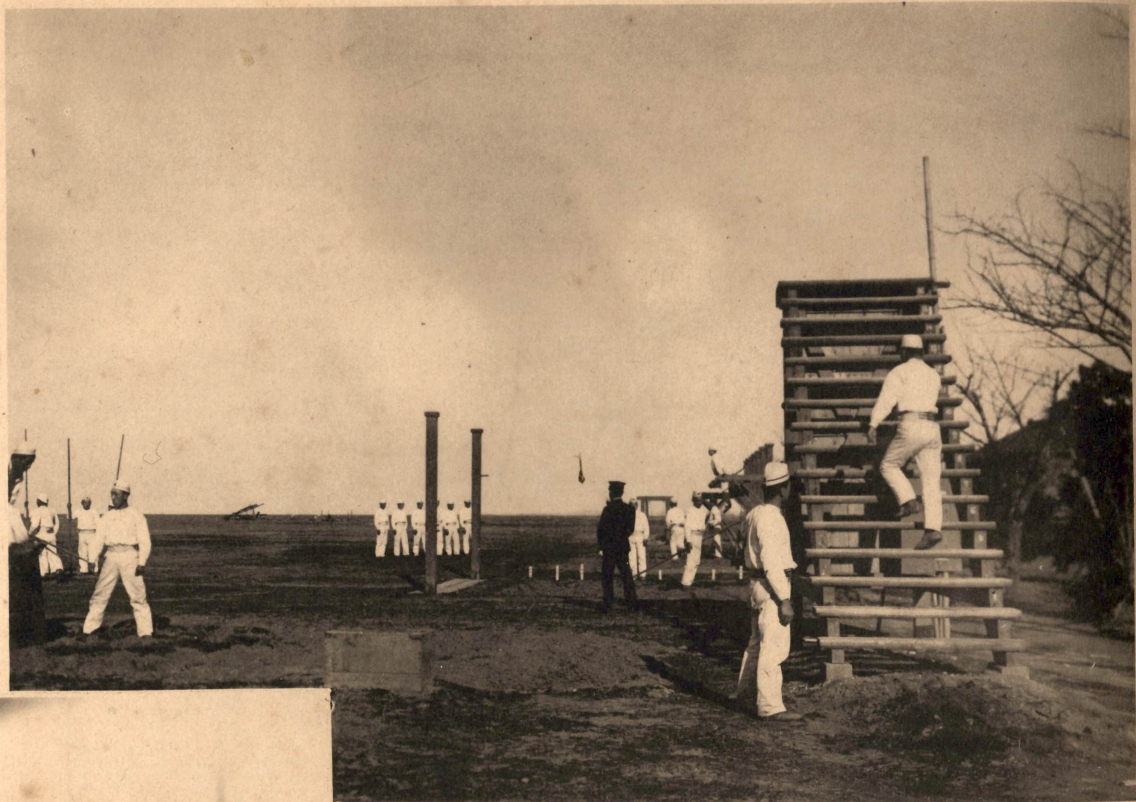
銃隊教練

自然主義の社會主義のとニヤケダ男が黄い
 嘴で囀つて居る娑婆世界に長の間御厄介に
 なつた新人生を一ばし軍人らしい軍人にす
 る迄には相當の時日と勞力とが要せられ
 る。精神教育よりも何よりも先づ銃体教練
 で不動の姿勢から荒削にかける。眞夏の太
 陽が頬も手足も焼き盡して火の出る様な教
 練の日が続く。冬の休暇で始めて彼等が嬉
 しい歸省をする迄にはまかり間違へば美顔
 水でもつけ様と云ふ中學氣質はスツカリ洗
 ひ去られるのである。



工業

(其七) 銅鉛



別科

(其二) 体操

一週間に一度は必ず別科として体操を課せられる瑞典式を主とし在來の獨乙式を補として約一時間行ふ、輕快なる者は猿猴の如く振舞ひ拙にして尻の重きは「鹽鮭」の樹幹にブラ下れるが如し。一跳一躍一屈一伸、唯真面目を旨として行ふ處に無限の價値がある。

別科

(其二) 劍道

あたまの鉢に龜裂が入る程叩きつけたと思つてる間に此方がグワンとやられる。向ふに一つ叩かして此方は三つ返へそうといふ攻撃主義である。ヘナヘナして居ると目の廻る程頂戴して板の間に引操返へされて、足腰が立たなくなる。

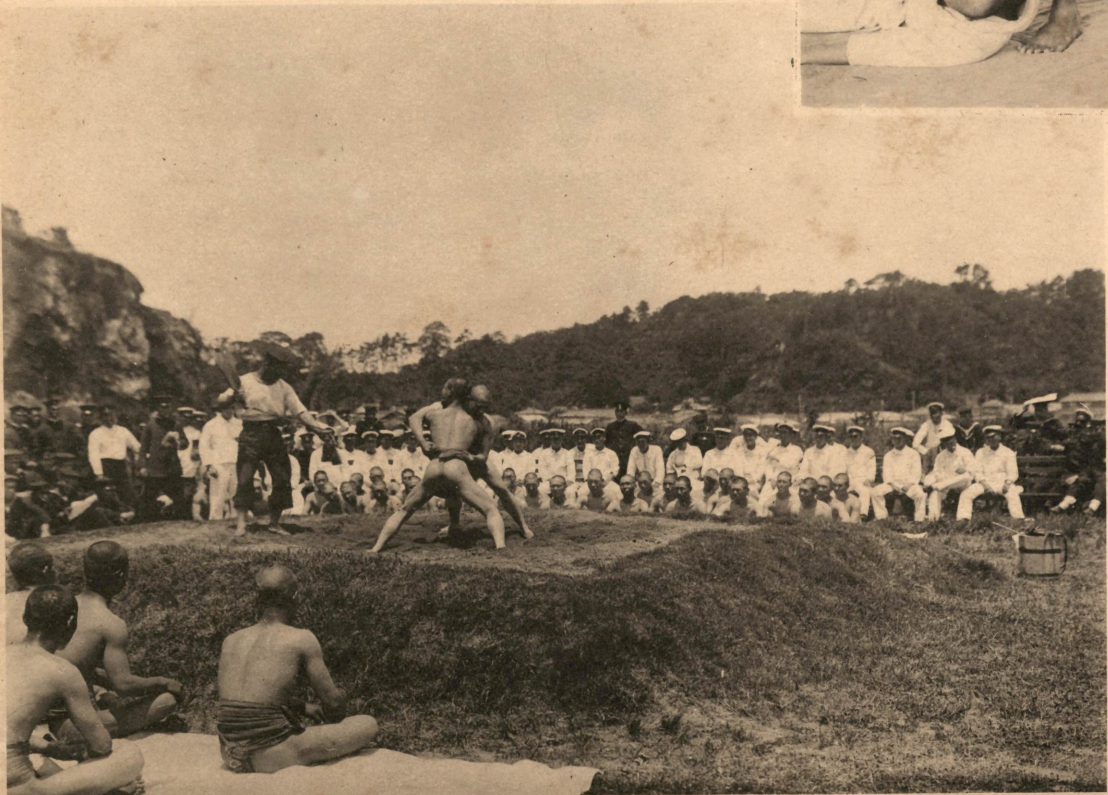




別科

(其四)

野見宿禰が當麻蹴速を蹴殺してより角力なるものが開かれたと聞いて居るが、此處にも二つの土俵があつて夏期になると角力が行はれる、筋骨隆々打たば憂々音を立てんばかりの猛者連が四十八手の引く手差足様々の業をみせる。新發明の珍手もある。



別科

(其三) 柔道

虚々實々の秘術を盡す柔道の亂捕。裾の黒線は級別を表はす。思切つて投げ出す従つて。あたまで受ける位は度々ある。痛いなどと思つていと直ぐドタンとやられる。



喫煙室

動中自から静あり。忙しい許りが白濱生活の真相ではない。時には紫の烟豊かに吹かして次で起る熱狂的な活動を他處に他愛もない閑談に耽ることもある、生徒の喫煙室は食堂、洗面所と同じ棟に北よりの切り立つた崖の下に在る。白い肌の處は現はれた崖の斜面に眞赤な乙女椿が開いてそしてほとくと散つて行つたり緑の茂みの中になけた、ましい時鳥の鳴く音を聞いたりする時切實に家郷遠しと思ふものも強ち一人のみではあるまい。



水泳

六月中旬より九月中旬まで、雨が降ても風がふいても海の子はドブン〜。



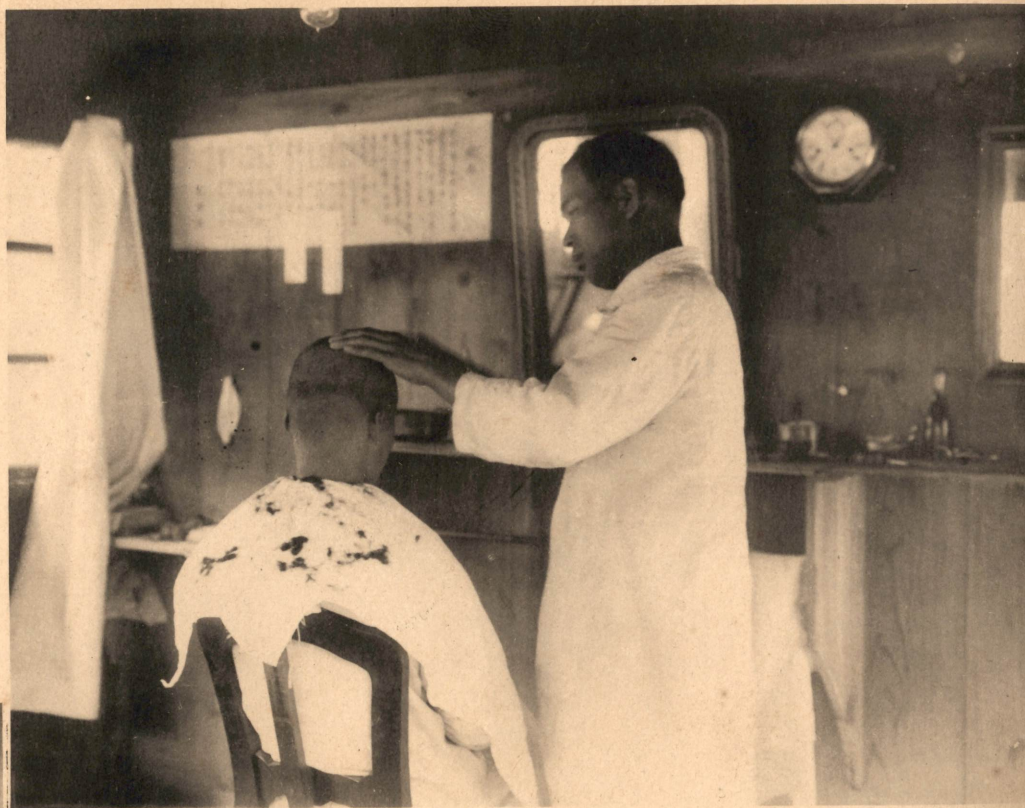
第二展覽室

展覽室は各部門に分かれて三室ある。生徒は餘暇ある毎に此處に入つて或は修養の書を繙き聖人君子の教を學び、或は参考書に眼を曝して我が學殖を益々豊ならしめんと欲し、或は又内外の新聞雜誌を通讀して博く常識を養はんと心掛ける者もある。見よ零丁洋上零丁を嘆じたる烈士文天祥はその意氣を「忠、孝」の二字に躍如たらしめて



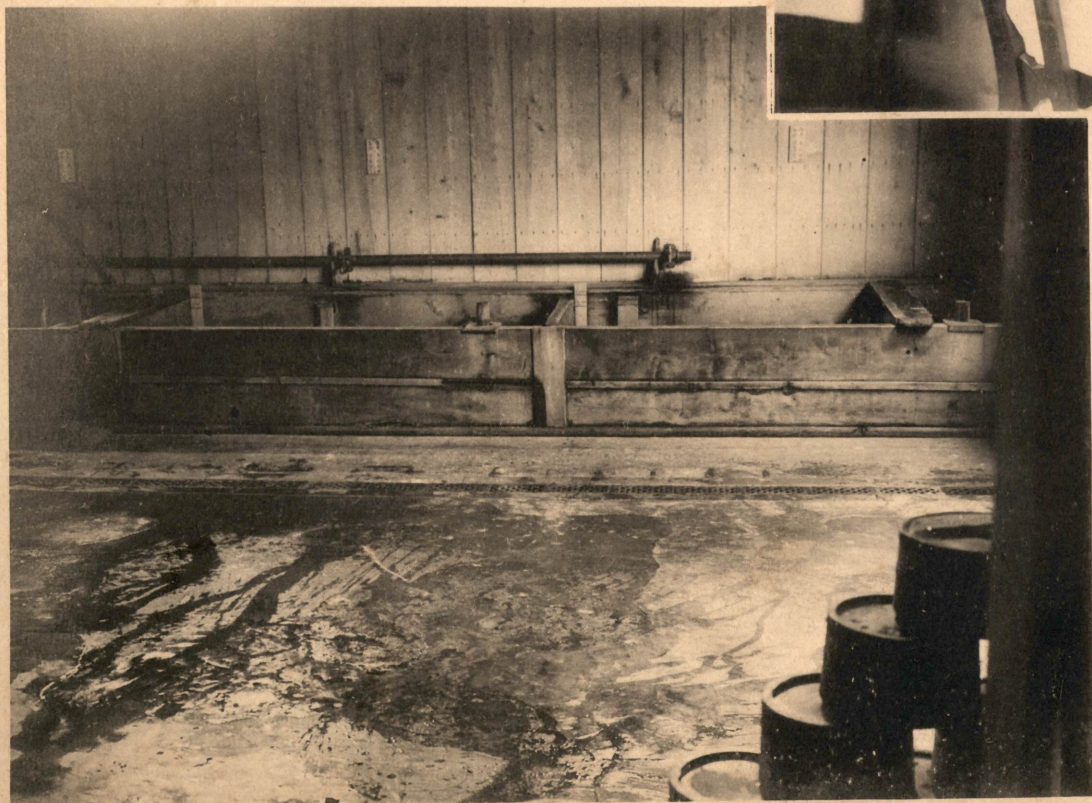
第一展覽室

科學の書物、歴史地理の書物、偉人傑士の言行録を始めとして萬卷の書を藏す而して是等萬卷の書は只生徒をして單なる物識りならしめんが爲に備へらるゝに非ず、虱一匹捻り殺す能はざる學者先生を作らんとにはあらず、娑婆の圖書館とは大いに異なる趣旨の下に備へ置かるゝものなることを思へ。



浴室

一日の中で何が最も愉快で又楽しいかと尋ねたら恐らく生徒の總ては「風呂」と答へるだらう、朝五時半にベッドを離れて午後五時近くまで頭の尖から足の先まで寸分の暇なく油断なく働かして居らねばならぬ生徒にとつて、入浴程氣樂なものはなく入浴程精神をフレッシュさするものはない、容量三噸餘の大浴槽二つの中に一度に四五十宛の毬栗頭を泛ばせて、サモ愉快さうに語りつ笑ひつして居る生徒連をみると、これが二十前後の者ばかりかと思ふ程無邪氣にあどけなく見える。



理髮所

七分間の頭刈。

學校の生徒と海兵團の新兵の頭は刈るのではない毫るのだとは町の散髮屋から聞いた。一生戯れてシヤモありなむといふ。好適。

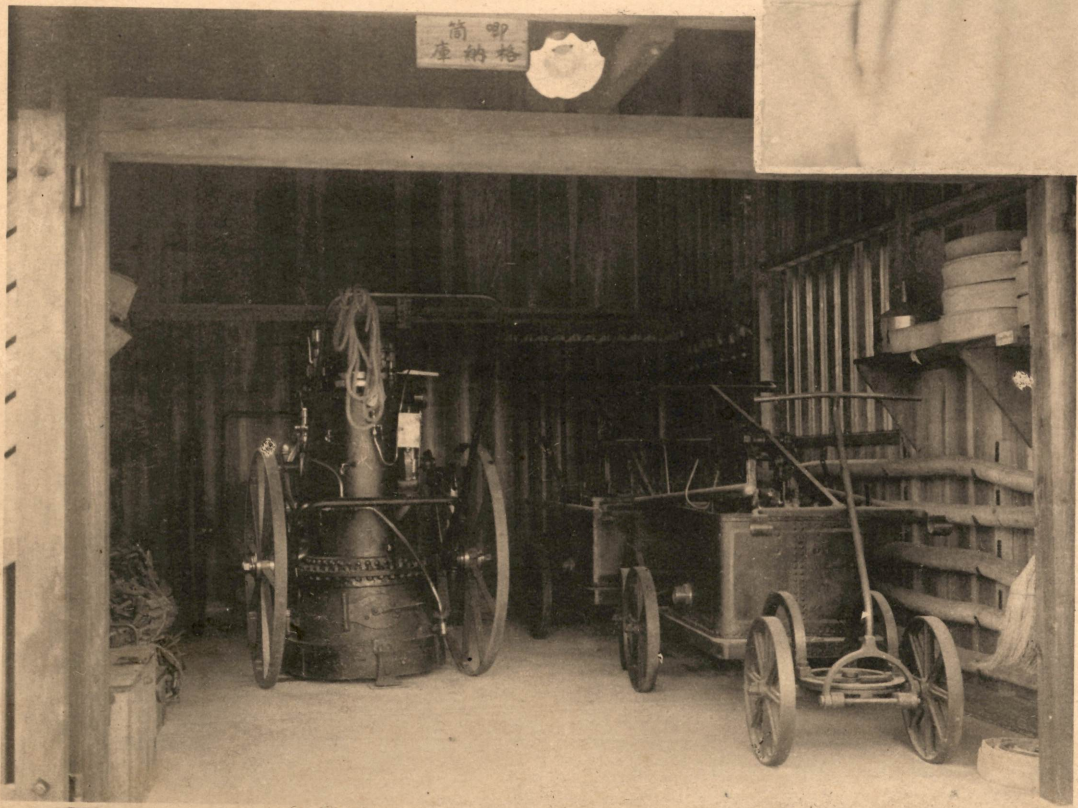


唧筒格納所

手働唧筒が二臺、蒸氣唧筒一臺。

開校以來小火一つ有つた例の無い學校にも、まさかの時の用意は整ふてゐる。

カン／＼／＼時折見果てぬ夢を破られることがある。がばとはね起きて大車輪のモーション、各々防火の配置につく、五分足らずで唧筒のホーズからは勢よく水がほとばしり出るのである。



温習

朝と夕との制規の温習以外に御勅諭も奉讀すれば懐しのうからやからに手紙も書く。一個分隊には温習室二、寢室二宛ある。